

研修成果の活用レポート

**所属名・氏名・修了した研修名**  
青森市立新城中央小学校 松本幸平  
平成30年度第3回中堅教員研修

**応募部門名**  
校内研修プログラム開発・実践部門

**活動名：**  
ICT でつなぐ・つながる  
～授業づくりの3本柱で授業改善～

**解決すべき課題：まずは児童と教師が共に抱える課題や願いの把握することから**

- ・学力向上 = 基礎基本の学力に加え、身に付けた知識や技能を様々な場面で活用できる力を身に付けさせたいが、有効な手立てを講じるに至っていない。
- ・ICT活用 = 教育の情報化実態調査等の結果から、授業におけるICTの活用が、本校を含めた本市全体で停滞していることが明らかとなった。

**目標・方針：研修主任としてリーダーシップを発揮しながら、課題の解決や願いの実現のための研究の方向性を示す**

- ① 授業づくりの3本柱「課題設定・学び合い・まとめと振り返り」の充実を提案し、児童一人一人の「できた、分かった」を保障することで学力向上を目指す。（中心資料）
- ② 停滞している授業改善のブレークスルーとして、タブレット端末を教師と児童が共に活用することで、教師と児童をつなぎ、日常の授業の改善につなげる。
- ③ 授業実践の積み重ねや積極的な情報発信により、誰もが日常的に実践できるICTを活用した授業改善の輪を、本校を含めた本市全体へ広げる。

**活動内容：中堅教員研修で学んだことを生かしながら**

- ・青森市教育委員会が提案している「授業改善あ・お・も・り・しメソッド参観の視点」を取り入れながら、授業づくりの3本柱の工夫・改善によって、日々の授業を充実させる。（資料2）
- ・指導案検討会やワークショップ型研究協議会において、若手・中堅・ベテランをバランスよく配置することで、それぞれのキャリアステージでの資質能力の向上を図る。
- ・中堅教員研修で学んだ「カリキュラム評価のためのチェックリスト」（田中・根津 2009 を一部改編）や教育の情報化実態調査、学校情報化認定、児童や教師へのアンケート調査、学力調査の結果と分析等の客観的なデータを基に、取組の工夫・改善を行う。
- ・タブレット端末を、教師の活用「大きく見せる・書き込んで説明する等」と、児童の活用「情報の収集・学び合い等」に分けて整理し、その有効性を検証するとともに、成果を学校内外に積極的に発信する。（写真1・2）

**活動の成果：教師が変われば児童が変わる、そして学校は大きく変わっていく！**

- PDCA サイクルのもと、カリキュラム評価等を生かしながら、ICT ミニ研修会の実施や小冊子とリーフレットの発行・配布等の改善策を講じることで、タブレット端末を活用して授業改善に取り組む教員の割合が増え、同様の取組が他校にも広がっている。（グラフ2、資料4・5・6）
- 学校独自の児童アンケートで、「勉強していることがよく分かる。」と答えた児童の割合が増えた。（表1）
- 標準学力検査 CRT の結果から、授業改善により学力が向上していることが明らかになった。（グラフ1）
- 教員のICT活用指導能力、特に「児童のICT活用を指導する能力」が高まった。（表2）
- 児童用タブレット端末の導入など、環境整備によって学校情報化が推進され、特に「教科指導におけるICTの活用」の取組に進展が見られた。（グラフ3）
- 研修便りやICT通信の発行、学習の振り返りの視点等の全校共通の掲示物の活用により、研究実践の方向性を共通理解でき、共通実践につながっていった。（資料1・3）

**アピールポイント（アイデアや工夫）：ズバリ、研修の日常化と授業改善の輪の広がり！**

- ① 研究構想ダイジェスト版の発行により、いつでもどこでも研究内容を確認できるようになり、研修の日常化が実現されるようになった。
- ② 教師同士が日常的に授業改善を話題にしなが実践を積み重ねることでICTが当たり前の手立てとなり、結果として分かる授業が実現し、学力向上につながった。
- ③ ICT活用に関する小冊子は各研究会で、リーフレットは市内の全小・中学校に配布した。また、各研究会での授業公開、教育委員会の視察の受け入れ、セミナー等での実践発表等により、ICTを活用した授業改善の取組が本市全体へと広がっている。

**【授業づくりの3本柱の工夫・改善】**  
資料1 研修便り 資料2 あおもりしメソッド

**【教師と児童をつなぐ ICT 活用】**  
資料3 ICT 通信 写真1 授業実践

**【学校内外への情報発信】**  
中心資料

資料4 ICT活用小冊子 写真2 実践発表

資料5 ICT活用リーフレット

児童と教師がつながる  
学力向上につながる  
児童・教師・学校の変容

**グラフ1 学力向上**  
CRTの結果（全国平均=100）

年度	H27	H28	H29	H30
結果	102	101	105	108

**表1 児童の学習に取り組む姿勢の向上**  
【学校独自の児童アンケートから見た学習に取り組む姿勢の向上】

質問項目	H28	H29	H30
勉強していることがよく分かるか。	27.4	38.3	64.4
友達や先生の話をよく聞いているか	18.6	37.5	35.0
自分の考えを相手に伝えるように話しているか	19.9	20.8	39.1
自分の考えをしっかりと書いているか	17.1	25.9	35.9

**グラフ2 タブレット活用**  
授業で日常的にタブレット端末を活用している教員の割合

年度	H29	H30	R1
割合	33%	60%	78%

**表2 教員のICT活用指導力の向上**  
【教育の情報化実態調査から見た教員のICT活用指導力の向上】

内容	H28	H29	H30
A 教材研究・指導の準備・評価などにICTを活用する能力	27.4	38.3	64.4
B 授業にICTを活用して指導する能力	18.6	37.5	35.0
C 児童のICT活用を指導する能力	19.9	20.8	39.1
D 情報活用の基礎となる知識や態度について指導する能力	17.1	25.9	35.9

**グラフ3 学校情報化**  
学校情報化の進展（学校情報化認定）

項目	H30	R1
教科指導におけるICT活用	1.2	1.8
情報教育	1.4	1.6
校務の情報化	1.0	1.4
情報化の推進体制	1.2	1.5

**資料6 カリキュラム評価**

課題	改善策
▲児童用タブレット端末の不足	○児童用タブレット10台導入
▲活用の方で分からないことが多い	○ICTミニ研修会の実施や通信の発行
▲本校だけの取組になっている	○小冊子やリーフレットの発行・配布